

大学院教育学研究科

所 属 ・ 職 位	大学院教育学研究科（教職大学院）・准教授	
氏 名	木村 典之 (Kimura Noriyuki)	
取 得 学 位	修士（教育学），大分大学，2002 年 3 月	
S D G s 目 標		

研 究 分 野	教育学
研究キーワード	学校経営，学習指導，授業研究，教材開発，授業づくり
研 究 内 容	●「あそび」をテーマとした美術教材の開発と指導法の研究 身近な材料や道具を使って，だれもが参加できる美術教材を研究開発しています。造形あそびや鑑賞あそびにおける学習者の「夢中・没頭」を学習意欲につなげます。主に導入場面での活用を想定した教材開発と指導法の研究です。（論文1，著書1） ●「ちがひ」を活かしあって学ぶ授業づくりに関する研究 授業の中で，傾聴，明確化など「関わりの技法」を活用します。また，自己理解，他者理解，所属感などの「感情体験」の場を作り，「ちがひ」を活かしあう学習風土を醸成します。「教科で身に付ける力」と「他者と関わりながら学ぶ力」とを関連付け，自尊感情と学ぶ意欲とを相乗的に高める授業づくりをすすめます。（著書2.3） ●「色」をテーマとした探究学習に関する研究 「色」は，子どもたちにとって身近で，親しみを感じるテーマです。また，「色」には，芸術の側面，科学の側面，歴史や文化の側面などがあります。この「色」の多面性を活用して，教科・領域を横断しながら学べるよう指導計画をたてます。そして，子どもの感じ取った「色」の不思議（問い）から学習活動を組み立てます。（論文2，3，著書4）
研 究 業 績 ・ アピールポイント	●論文 「ドラム缶窯による黒陶制作の可能性～中学校美術科における黒陶教材導入をめざして～」木村典之，大学美術教育学会誌N0.38（pp.129～136），2006年 「地域の色をテーマとした教科融合型学習の研究1ーいのちの色をみる・つくる・感じるアートワークショップの検証ー」藤井康子，木村典之，大学美術教育学会「美術教育学研究」第49号（pp.355～359），2017年 「中学校美術科と国語科の教科融合型学習の研究（1）ー地域の鉱物から顔料を作り，色名を考える事例からー」藤井康子，木村典之，永松芳恵，日本美術教育連合「日本美術教育研究論集」第51号（pp.281～286），2018年 ●著書 「緑色の太陽 表現による学校新生のシナリオ」宮脇理編，国土社，2000年 担当：第5章 感覚の「総合」と「総合的な学習」の接点（pp.97～112） 「新しい時代の学力づくり授業づくり～資質能力を育てる～中学校美術科編」遠藤友麗編著，明治図書，2002年 担当：第7章 批評や討論を活かした鑑賞（pp.52～59） 「中学校の学力向上戦略プラン集」佐野金吾編，明治図書，2004年 担当：第9章 子どもの学習観の転換と意欲（pp.89～98） 「色から始まる探究学習 アートによる自分づくり学校づくり地域づくり」「地域の色・自分の色」実行委員会＋秋田喜代美編著，明石書店，2019年 担当：1章2②「学校教育の視点から（美術を核とした総合教育に向けて）」（pp.26～32），2章1「色に関わる3年間の取組実践」（pp.48～57），2「子どもたちの学びと育ち」（pp.58～66），3「絵手紙で地域を発信」（pp.67～74），5「子どもたちの資質の伸び」（pp.84～91）